

ここに注目！ **地域大学や NPO との商学連携で、さまざまなイベントを実施、商店街の活性化事業を推進。**



ポイント

地下鉄・日比野駅に隣接し、名古屋学院大学との商学連携や、今年で21回目となる「ひびのこイまつり」等を通じ、来街者の幅広いニーズを満たす利便性の高い商店街となっている。行政や地域団体と連携した福祉イベントへの参加や環境に配慮した清掃活動等への積極的な取組を通じ、地域コミュニティの核として、地域の交流や活性化に重要な役割を果たしている。

[商店街概要及び取組の背景]

商学連携事業により、商店街活性化へ

日比野商店街振興組合は、平成3年に設立された熱田区内で一番新しい地域型商店街である。近隣には、名古屋国際会議場、白鳥庭園などの大規模施設や都市型観光地がある。設立当初62名であった組合員数は、近年、近隣地区に大型店舗が出店したこともあり、平成18年には41名まで減少した。

平成19年に名古屋学院大学が日比野地区に移転し、翌年から本格的な商学連携事業が始まると、大学による継続的な商店街活性化活動が行われることになり、活性化への道すじをつける機運が商店街に湧き上がっていた。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

学生やNPO等のアイデアが各種商品や取組に

平成20年、商店街と名古屋学院大学教職員および学生まちづくりサークル、そして地域NPOが参加する「日比野商店街活性化会議」が発足し、月一回定例会が開催されるとともに、さまざまな商店街活性化事業へ取組が始まった。学生発案の買い物スタンプラリー「ひびのタウンズ」発行や逸品グルメ事業、大学キャンパス屋上で始まった養蜂で採れた日比野産のはちみ



商学連携で活気を取り戻す商店街

つを活用したオリジナル商品開発、地元NPOが開発したB級ご当地グルメ「あつた餃子」の商店街飲食店での展開など。その後、平成18年には41まで減少していた組合員数は大幅に増加し、平成22年で70を超え、平成25年現在で75にまで達している。

また、女性部が平成24年に発足し、女子学生も多数参加する「ひびの小町」の名称で活動を開始し、女性ならではの視点でさまざまなイベントの開催やオリジナル商品を開発・限定販売を行っている。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

月1回のPDCAの点検評価を実施

大学や地域NPOとの連携事業は、収益性にも優れており、地元産はちみつやご当地グルメなどは、会議場や白鳥庭園の来訪者だけでなく地域住民にも支持され、商店街内に年間500万円程度の経済効果をもたらしている。

また、これらの事業を含め、月1回のペースで開かれる「日比野商店街活性化会議」では、商店主だけではなく、学生のアイデアやバイタリティ、大学教授からのアカデミックな視点も入れつつ、いわゆるPDCAサイクルでの点検評価を行っている。

[実施体制]

商店主、大学生・教員、NPO、自治体等の密接な連携

日比野商店街では役員会のほかに、平成20年から月1回のペースで開かれる「日比野商店街活性化会議」が開催されている。この会議には、商店主・大学教職員・学生・地域NPO、名古屋市職員も毎回参加しており、主に活性化事業のアイデア出しやPDCAサイクルに基づく点検評価を行っている。そのほかに平成24年から商店街女性部「ひびの小町」が発足しており、商店街の女性だけでなく、名古屋学院大学の女子学生や地域NPOの女性メンバーも参加している。

平成19年には、名古屋学院大学と名古屋市との地域連携協定が締結されており、その中で、商店街活性化への協力・連携が盛り込まれている。また、名古屋学院大学は平成25年には、文部科学省「大学地(知)の拠点整備事業」の認定を受け、地域商業まちづくりの推進を重点事業と位置付けている。

基本データ

所在地：愛知県名古屋市熱田区西郊通

会員数：75名

店舗数：60店舗

関連URL：<http://hibino.sakura.ne.jp/>



「ひびのこいまつり」

キーパーソン



日比野商店街振興組合
理事長 近藤 一磨

地域の商店街と観光の両立を目指して

当商店街は現状では学生の町と云えるほど賑わっている訳ではありません。というのも大学と商店街の間には50m幅の幹線道路と5叉路の交叉点があり、そこを渡らねばならないからです。反対に通学路は住宅街を抜けていくので商店はほとんどありません。また、同じ理由で国際会議場への来訪者が商店街へ足を運ぶのも僅かです。個店がその魅力向上に努めることは勿論ですが、学生向けのサービスクーポンや逸品グルメマップの継続発行で集客の増加に期待したいと思います。本年度から開始した“日比野商店街観光まちづくり推進事業”は国際会議場のホスト商店街として組合員でもある日比野場外市場や白鳥庭園を核に観光客誘致のツールとしてセグウェイでの会議場⇄庭園間移動キャンペーンも実験的に実施しました。本年10月に開

かれるESDユネスコ世界会議では英字版の冊子の発行を予定しており将来的にはインターナショナルな商店街を目指したいと思います。

20年続いた工事を耐えていたら大学がやって来た

当商店街は本年3月に市街地再開発事業が終了しますが、その間20年間道路拡幅、高速道路の新設工事などで工事用のバリケードが林立している町でした。転機は平成17年の大学移転の決定に始まり、平成19年の開校で大学が支援し経済学部の水野先生が指導するカフェ“マイルポスト”が開店しました。同時に商店街と所属する学生との交流が始まりました。以来月1回の活性化会議ばかりでなく、常に顔を合わせる関係になりました。それぞれの活動を補完しあう形で活動が続いています。現在、理事会、活性化会議を始め、各委員会部会を毎月6～8回の会議が有り、組合員の半数がどれかに参加しています。参加するメンバーの営業時間に合わせて会議の時間を設定し、参加しやすい体制を作ることを心がけています。また、組合員のコミュニケーションツールとしてFAXで日比野商店街短信を月1、2回発行して、情報の共有化に努めています。